

サステナビリティ経営をめぐる先行研究の分析

石 田 満 恵

1. 研究の背景と目的

2015年に国連サミットで採択されたSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)、そして、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が、国連責任投資原則(Principles for Responsible Investment: PRI)へ署名した影響を受ける形で拡大したESG投資等、日本においても、国際的な動きが後押しする形で、企業が社会的課題解決を通じて、企業価値を高める取り組み、すなわち、企業による社会価値創出の機運が高まっている。

実際、日本最大級の会員制ビジネスデータベースサービスの日経テレコンによると、社会価値創出に取り組む企業経営に関する記事は、年々増加の傾向にあり、2020年現在の年間記事数は、5年前の2015年の年間記事数と比較すると、約9倍にまで増加している¹⁾。

しかし、社会価値創出に取り組む企業経営のあり方を表す際、用いられる用語は多岐に渡り、統一されていない。例えば、SDGsが採択された2015年9月以降、2020年12月現在までの記事を抽出した場合、SDGs経営:57件、サステナビリティ経営:15件、ESG経営:76件、CSR経営:35件、CSV経営:4件と複数存在する。

それぞれの経営を表す用語には、どのような違いがあるのだろうか。学術的視点においても、サステナビリティやESG報告で使用される用語に統一性が欠けていること(Johnstone-Louis

and Love, 2021)、SDGsやESG、CSRといった用語が適切に位置づけられていないために、企業で混乱が発生していること(松田, 2021)、氾濫しているサステナビリティの用語や取り組みについて、縦断的かつ倫理的に分析を行う必要性があること(DesJardins, 2016)等、サステナビリティに関する用語が、統一した見解に至っていない点について、複数の指摘が見られる。

企業の行うビジネスが、社会にどのようなインパクトを与えるのかについて、広くステークホルダーに理解してもらうためにも、統一した見解に基づき、ステークホルダーと共通理解を図ることが求められる(高浦・藤野, 2022)。そこで本稿は、社会価値創出に取り組む企業経営に関する先行研究を体系的に整理し、各経営を表す用語²⁾について考察することを目的とする。

本稿は、本節も含めて7節から構成される。第2節では、企業の社会価値創出の分析フレームワークに関する文献レビューを行い、本稿で用いる分析フレームワークを表す。第3節では研究方法を表し、続く第4節では、文献データベースを用いて、社会価値創出に取り組む企業経営に関する先行研究を条件に基づき抽出し、クラスター分析等の定量分析を通じて研究動向の把握を試みる。第5節では、前節で定量分析を行った中から、類似の主張が2本以上見られる先行研究を対象として、さらに条件を絞り定性分析を行う。第6節では、第2節で表わした

分析フレームワークに基づき、先行研究の分析を行い、各経営を表す用語について考察する。最後に、第7節で本稿の結びを表していく。

2. 社会価値創出に取り組む企業経営の分析フレームワーク

先述の通り、SDGsの採択やPRIへの署名等、グローバルの潮流も後押しする形で、企業が社会価値創出を行うことに対する機運が高まっている。一方、どのようにサステナビリティを経営戦略の根幹に捉え、取り組めばよいか分からない等、多くの企業が、社会価値創出への対応に苦慮している現状が見られる (Epstein and Roy, 2001; KPMG, 2018; グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ) と地球環境戦略研究機関 (IGES), 2018; モニターデロイト, 2018)。

これまで、企業の社会価値創出の成功要因を導出すべく、複数の研究者によって分析フレームワークが提示されてきた。Epstein and Roy (2001) は、17年以上の期間を掛けてリサーチを行い、企業活動の社会的および財務的インパクトの両方を含む、分析フレームワークを表している。このフレームワークは、次の5つの主要なコンポーネントで構成されている。①企業および事業部門の戦略 (経営戦略、競争優位の獲得等)、②サステナビリティへの取り組み (従業員教育、認証取得率、各種サステナビリティプログラム等)、③サステナビリティパフォーマンス (二酸化炭素排出量、女性従業員の割合等)、④ステークホルダーの反応 (ブランドイメージ調査、信用格付け、アワード受賞実績等)、⑤財務パフォーマンス (ROI, EVA 等) である。

米国における、企業と社会論の代表的テキストを著した Post et al. (2002) は、企業がステークホルダーに及ぼす影響として、①経済的競争、②倫理的期待と公共的価値、③政府の役割と公共政策、④環境、⑤技術と新しい知識といった5つの要素に注目し、企業の社会価値創出に関する分析を行っている (松野, 2019)。

Labuschagne et al. (2003) は、複数の組織が絡み合う中、企業がサステナビリティ活動を行い、社会的および財務的インパクトの両方を計測するには、①自社指標 (従業員教育、行動指針、環境対策、多様性等)、②マネジメント指標 (マネジメントシステム、財務パフォーマンス、コンプライアンス等)、③ステークホルダー、パートナー&プロダクト指標 (サステナビリティパフォーマンス、倫理性、レポートイング、情報開示等) の3つの視点から分析を行う必要があると指摘している。また、分析結果を情報開示することは、企業がサステナビリティへどのように取り組んでいるか、地域社会や政府等が理解する上で、重要なことであると主張している。

Lozano (2013) は、53の欧州企業のサステナビリティレポートを用い、そのレポート内容を、①経済面 (顧客と株主)、②環境面 (二酸化炭素排出量等)、③社会面 (従業員教育、コミュニティ活動等)、④経済面と環境面 (エコプロダクトの開発・展開等)、⑤環境面と社会面 (コミュニティと環境問題、コミュニティとダイバーシティ問題等)、⑥経済面と環境面と社会面 (サプライチェーン・マネジメント、災害と復興等) の6つの側面から分析している。その結果として、サステナビリティレポートにおいて、情報のカバレッジが低い業界が見られる点を指摘している。

Perrini and Tencati (2006) は、企業がステークホルダーのニーズを理解しながら、組織のパフォーマンス傾向を、継続的にモニタリングするためのフレームワークとして、持続可能性評価報告システム (Sustainability Evaluation Reporting System: SERS) を用いている。このシステムは、1) サステナビリティレポートイングシステム、2) 統合報告システム、3) KPIの設定の3つのコンポーネントで構成されており、1) サステナビリティレポートイングシステムを構成する①社会レポートイングでは、倫理方針、社会的課題解決を通じて生み出された

表1 社会価値創出に取り組む企業経営の分析フレームワーク

① 戦略・マネジメント
マネジメントシステム
競争優位の獲得（エコプロダクトの開発・展開等）
サプライチェーン・マネジメント
② サステナビリティの取り組み
従業員教育
企業倫理, ガバナンス, コンプライアンス
③ サステナビリティパフォーマンス
環境指標（二酸化炭素排出量等）
社会指標（女性従業員の割合等）
④ ステークホルダー関係
ステークホルダー・エンゲージメント
情報開示／レポーティング
⑤ 財務パフォーマンス
企業価値, 企業評価
サステナブル投資
⑥ 公共政策
公共政策への対応

出典：Epstein and Roy (2001), Post et al. (2002), Labuschagne et al. (2003), Perrinil and Tencati (2006), Lozano (2013) を参考に筆者作成

経済価値、政府・地方自治体も含めたステークホルダーとの関係性等を分析する必要があるとし、②環境レポーティングでは、環境会計における分析の必要性について言及している。

また、ESGの要素を組み込む、サステナブル投資に関する記事は年々増加の傾向にあり（石田，2022a）、社会価値創出に取り組む企業経営を考える上で、無視することのできない、重要な位置付けとなっている。GPIFも、「ESG投資において考慮されるESG課題とSDGsのゴールやターゲットは共通点も多く、ESG投資が結果として、SDGs達成に大きく貢献することになる」（GPIF，URL）と言及しており、ESG投資を始めとするサステナブル投資とSDGsの関係性は、それぞれ表裏一体であるとしている。

以上を整理すると、サステナブル投資も含め、社会価値創出に取り組む企業経営に関する先行

研究において、分析フレームワークとして用いられている項目は、主に、次の6つの領域に分類できると考える。①戦略・マネジメント（マネジメントシステム、サプライチェーン・マネジメント等）、②サステナビリティの取り組み（従業員教育、企業倫理等）、③サステナビリティパフォーマンス（環境指標、社会指標等）、④ステークホルダー関係（ステークホルダー・エンゲージメント、情報開示等）、⑤財務パフォーマンス（企業価値、サステナブル投資等）、⑥公共政策（公共政策への対応）である。

従って、本稿では、社会価値創出に取り組む企業経営に関する先行研究を、表1に表した6領域に基づき体系的に整理し、先述の5つの経営を表す用語、すなわち、SDGs経営、サステナビリティ経営、ESG経営、CSR経営、CSV経営について考察を行うこととする。

表2 論文抽出結果

キーワード	論文数
SDGs AND Management	90
Sustainability AND Management	1,184
ESG AND Management	23
CSR AND Management	468
CSV AND Management	8
総 数	1,773

出典：筆者作成

3. 研究方法

本稿では、社会価値創出に取り組む企業経営に関する先行研究の文献レビューを行い、文献レビューで見出された内容を、表1の分析フレームワークに基づき分析し、5つの経営を表す用語について考察する。

文献レビューの方法として、Callahan (2010) は、論文に記述する事項を次の通り示している。①文献がどこで見発見されたか、②いつ検索したか、③誰が検索したか、④どのようにキーワードを組み合わせて文献を見つけたか、⑤キーワードの組み合わせごとにとどれくらいの記事数が出現し、最終的にどれほどのカウント数となったのか、⑥なぜ、それらの中から特定の論文が選択されたのか、の6つである。これら6つの事項に従い、先行研究の動向を把握するため記述分析(定量分析)を実施した後、さらに条件を絞り、内容分析(定性分析)を行う。

本稿は、①Web of Science³⁾から該当するキーワードが含まれる論文を抽出、②2022年1月11日に検索⁴⁾、③筆者が検索、④SDGs AND Management (SDGs経営)、Sustainability AND Management (サステナビリティ経営)、ESG AND Management (ESG経営)、CSR AND Management (CSR経営)、CSV AND Management (CSV経営)をキーワードとして検索⁵⁾、⑤論文数は表2で表示、⑥出現頻度が多い用語⁶⁾を含み、企業を主な研究対象とする論文の中で、類似の主張が2本以上の論文でなされているものを選択し、内容分析を行う。

尚、内容分析を行うにあたり、先述の表1を用いる。

4. 先行研究の記述分析

本節では、先行研究の動向を把握するため、抽出した論文の定量分析として、ジャーナル分析や、キーワードのクラスター分析等を行う。尚、前節の検索条件に基づき抽出を行った結果、各キーワードを含む論文数は表2の通りであり、総数は1,773本であった。

4.1. 発行年別の動向

発行年別論文数の動向は、図1に表す通りである。全体論文数は年々増加の傾向が見られ、内訳としては、Sustainability AND Managementのキーワードを含む論文が計1,184本と一番多く、全体の66.7%を占めている。

Creating Shared Value (共有価値の創造: CSV)の概念は、2011年にPorter and Kramer (2011)によって提唱されているが、CSV AND Managementのキーワードを含む論文は、その6年後の2017年から見られるようになった。また、2015年9月にSDGsが国連サミットにて採択されたことを経て、SDGs AND Managementのキーワードを含む論文は、その2年後の2017年から出現している。ESG AND Managementのキーワードを含む論文は、2017年から増え始めており、これについては、2016年のEU 職域年金基金指令の改正による、ESG要素を投資判断に組み込む意向の高まりが影響していることが示唆される。

4.2. ジャーナル系統別分析

抽出した論文が掲載されたジャーナルは、計386種類に上る。これらジャーナルの発行者がWebsiteに掲載している、ジャーナルの目的・対象分野を確認したところ、大きく16の系統に分類された。①経営学全般、②サステナビリティ経営、③戦略論、④組織論、⑤会計、⑥サ

プライチェーン・マネジメント, ⑦企業倫理, ⑧ファイナンス, ⑨マーケティング, ⑩企業と社会, ⑪アントレプレナーシップ, ⑫公共政策, ⑬教育, ⑭人的資源管理論, ⑮技術経営, ⑯その他⁷⁾である。

ジャーナルの系統別分析は、図2に示す通りである。経営学全般に該当する論文が26% (458本)と最も多く、次いでサステナビリティ経営の13% (235本)、三番目がサプライチェーン・マネジメントの10% (178本)、四番目が組織論の8% (140本)、五番目が企業倫理の7% (120本)である。

4.3. キーワード別ジャーナル系統分析

キーワード別にジャーナル系統を分析した結果は、図3に示す通りである。全てのキーワードを含む論文の掲載先としては、経営学全般系統のジャーナルが高い割合を占めている点が共通して見られる。

SDGs AND Managementのキーワードで抽出した論文は、49種類のジャーナルに掲載されているが、経営学全般系統のジャーナルの次に、教育系統(24%)の割合が多く、Sustainability AND Managementにおいては、323種類のジャーナル中、サプライチェーン・マネジメント(14%)やサステナビリティ経営系統(11%)、ESG AND Managementは23種類のジャーナルのうち、サステナビリティ経営(17%)や企業と社会系統(13%)、CSR AND Managementは171種類のジャーナル中、サステナビリティ経営(18%)や企業倫理系統(13%)、CSV AND Managementは8種類のジャーナルのうち、マーケティング系統(25%)のジャーナルへの掲載割合が、それぞれ多くを占める。

このように、Sustainability AND Managementのキーワードを含む論文は、323種類と最も多岐に渡る分野のジャーナルに掲載されていることが見出された。

4.4. キーワード別クラスター分析

本節では、タイトル・抄録語句の出現頻度を設定し、5つのキーワード別に文献のクラスター分析を行い、先行研究の構造を俯瞰する。

クラスター分析とは、「データ以外にあらかじめ基準を設定することなく、データの集まりをいくつかのグループに分ける方法」(宮本, 1999, p.1)である。本節では、分析ツールとして、VOSviewer (version 1.6.17: van ECK and Waltman, Leiden University)を用いる。VOSviewerを用いてクラスター分析を行うことにより、先行研究の動向や、キーワードごとに用いられている用語の傾向を視覚化し、キーワードごとにその特徴を概観することが可能になると考える(van ECK and Waltman, 2021)。

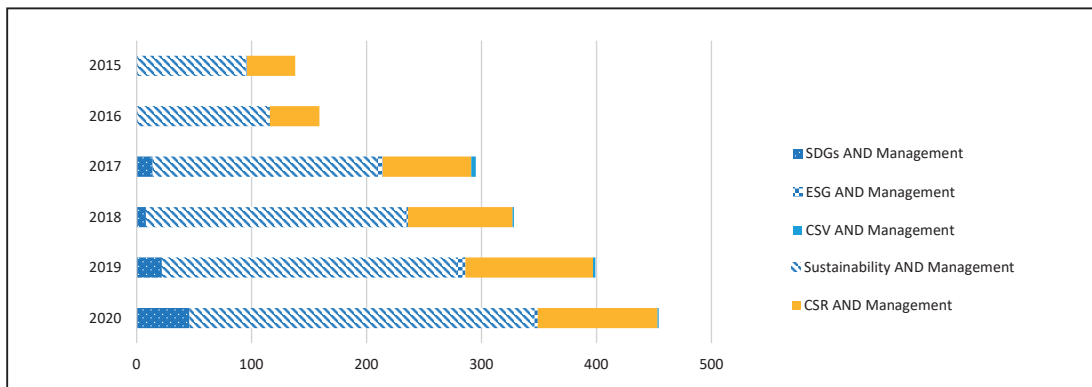
4.4.1. 抽出語

表3は、5つのキーワード別に、抽出語上位10位を示したものである。各キーワード特有の抽出語として、SDGs AND Managementでは、goal (95), policy (23), Sustainability AND Managementにおいては、supply chain (117), society (81), indicator (73), ESG AND Managementでは、governance (19), CSR AND Managementは、perception (63), sustainability (55), CSV AND Managementにおいては、value (14)等が挙げられる。

また、2つのキーワードの間で共通する抽出語としては、SDGs AND ManagementとSustainability AND Management間のsustainable development, Sustainability AND ManagementとCSR AND Management間のeffect, information, SDGs AND ManagementとESG AND Management間のimpact等が挙げられる。

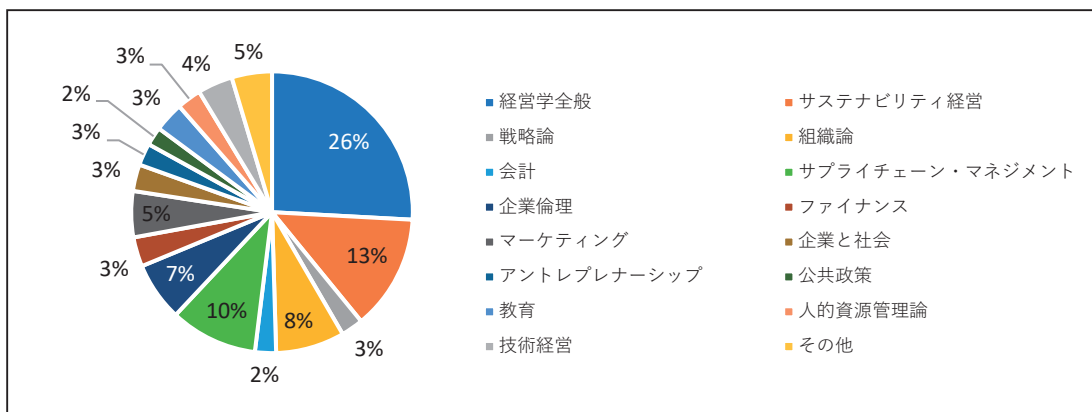
4.4.2. クラスタ

図4から図8は、VOSviewerを用いて、5つのキーワード別に抽出した用語の共起ネットワーク、すなわちクラスターを作成したものである。これにより、抽出語だけでは捉えきれな



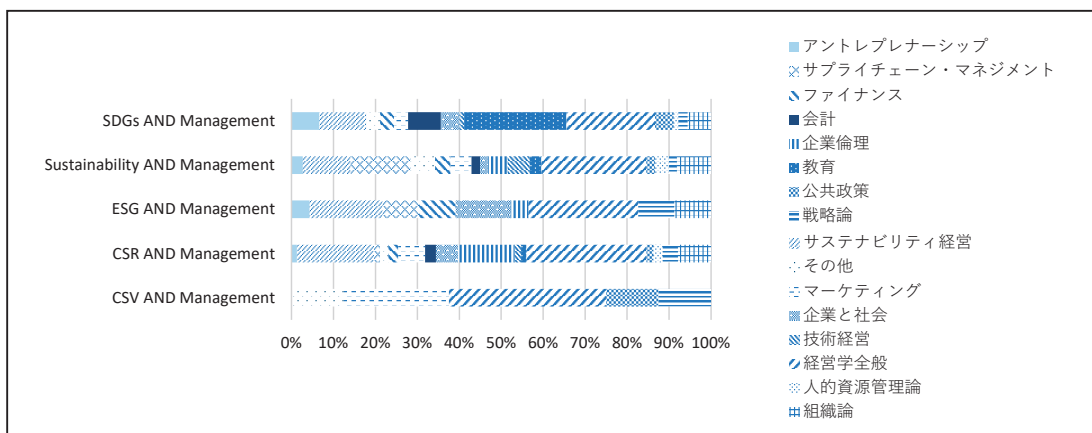
出典：筆者作成

図1 発行年別論文数



出典：筆者作成

図2 ジャーナル系統別分析



出典：筆者作成

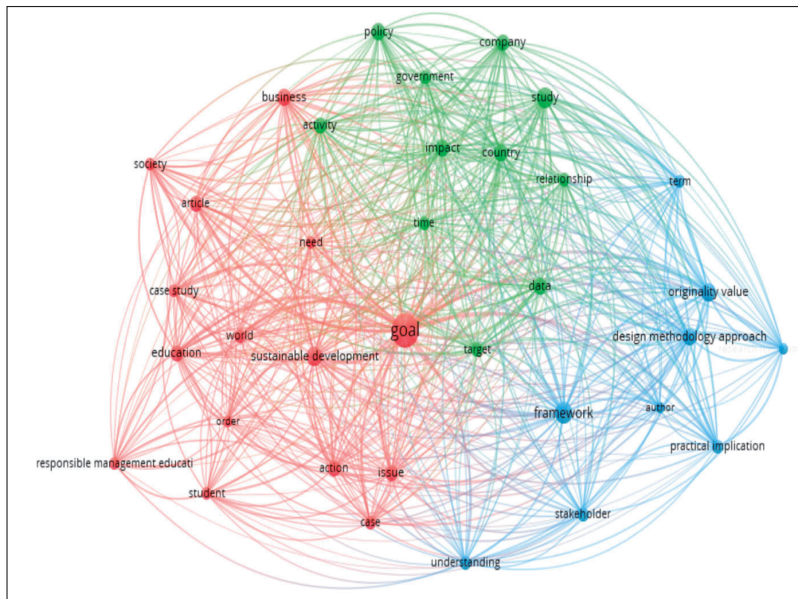
図3 キーワード別ジャーナル系統分析

表3 5つのキーワード別抽出語 (上位10位)

順位	SDGs AND Management		Sustainability AND Management		ESG AND Management		CSR AND Management		CSV AND Management	
	語	頻度	語	頻度	語	頻度	語	頻度	語	頻度
1	goal	95	firm	207	esg	21	effect	147	value	14
2	framework	38	effect	152	governance	19	sample	111	csv	14
3	study	34	supply chain	117	impact	14	evidence	85	business	7
4	sustainable development	30	information	108	firm	12	article	67	corporate social responsibility	6
5	originality value	27	evidence	106	paper	12	implementation	65	N/A	
6	design method approach	25	project	90	study	12	perception	63	N/A	
7	business	25	sample	89	N/A		concept	61	N/A	
8	data	24	society	81	N/A		information	55	N/A	
9	impact	24	sustainable development	74	N/A		sustainability	55	N/A	
10	policy	23	indicator	73	N/A		market	51	N/A	

※出現頻度10回以上の用語を対象とする (CSV AND Management に関しては2つしか該当が無いため、出現頻度6回以上の用語を対象とする)。詳細は注6を参照。

出典：筆者作成



出典：筆者作成

図4 SDGs AND Management におけるクラスター

い、用語同士の関係性や、データの集まりを視覚化して捉えていく。

SDGs AND Management は、3つのクラスターで構成されている。赤クラスターは goal, issue, education, sustainable development, 緑クラスターは policy, target, impact, 青クラスターは framework, stakeholder 等の用語を用いた論文を中心に構成されている。最出現頻度用語の goal を中心として、issue, target, stakeholder 等の用語が強い繋がりを見せている。

Sustainability AND Management においては、最多となる7クラスターで構成されている。赤クラスターは、project, solution, advantage の用語を用いた論文を中心に構成され、黄クラスターは、society, education, 青クラスターは、evidence, information, sustainability report, 緑クラスターにおいては、firm, effect, financial performance, environmental performance, 紫クラスターは supply chain, 水色クラスターは、sustainability management, competitiveness, オレンジクラスターは、construction, decision maker といった用語が含まれる論文を中心に構成されている。最出現頻度用語の firm を軸として、supply chain, effect, evidence 等の用語が強く繋がっている。

また、ESG AND Management においては、1つのクラスターのみが確認された。

CSR AND Management で抽出された論文は、3つのクラスターで構成されている。赤クラスターは sustainability, concept, knowledge, legitimacy, 青クラスターでは、implementation, perception, consumer, reputation, 緑クラスターでは、effect, CSR performance, information, disclosure 等の用語を用いた論文を中心に構成されている。最出現頻度用語の effect を中心に、consumer, reputation, CSR performance 等の用語が強い繋がりを見せている。

CSV AND Management の対象論文数は最も少なく、クラスター数も1つのみである。

このように、Sustainability AND Management は、クラスター数が最も多く、他キーワードよりも研究対象が多岐に渡っている。一方、ESG AND Management は、1クラスターのみと範囲が限定的である。CSV AND Management も、1クラスターのみ、かつ、対象論文が最も少なく、キーワードが広く普及している様子は見られない。

5. 先行研究の内容分析

本節では、定量分析では捉えきれない、論文で言及されている内容を深く掘り下げ、分析する。内容分析を行うにあたり、具体的に対象とする論文としては、前節のクラスター分析の際、出現頻度上位10位以内の用語が抄録に4つ以上含まれ、企業を主な研究対象としている論文であること、また、各カテゴリー内において、類似の主張が2本以上の論文でなされているものを中心に上げる。

5.1. SDGs AND Management 論文の内容分析

SDGs AND Management においては、条件に該当する52本の論文の中で、ビジネススクール等におけるマネジメント教育が、2030年までにSDGsで示された17のゴールを達成する上で重要であることを指摘する論文が、16本と最も多い (Rosenbloom et al., 2017; Calazans et al., 2019; Christ and Burritt, 2019; Zhigie-Luna and Sanmartin-Ramon, 2019; Herrmann and Rundshagen, 2020; Molthan-Hill et al., 2020 他)。

次に多い論文としては、投資と企業価値に関する4本 (Schramade, 2017; Miralles-Quiroset et al., 2019; Cunha et al., 2020; Tewari et al., 2020)、情報開示3本 (Rosati and Faria, 2019; Pizzi et al., 2020; Zemanova and Drulakova, 2020)、パートナーシップ3本 (van Zanten and van Tulder, 2018; Anderson and Ratiu, 2019; Castillo-Villar, 2020)、SDGs パフォーマンス評価3本 (Ferro et al., 2019; Mansell et al., 2020;

Muff et al., 2020), イノベーション2本 (von Geibler et al., 2019; Ranabahu, 2020), ガバナンス2本 (Sankaran et al., 2020; Paz and Cuenca, 2020), その他分類の研究⁸⁾と続く。

このように、企業がSDGs達成を目指し行動する上で、教育が重要であること、また、SDGsと企業価値の関係性に言及する研究が見られることが特徴として挙げられる。

5. 2. Sustainability AND Management 論文の内容分析

Sustainability AND Managementで条件に該当する92本の論文の中において、14本と一番多くを占めるものが、サステナビリティ情報開示について論じている研究である (Garegnani et al., 2015; Rajnoha et al., 2017; Ben-Amar et al., 2017; Davey et al., 2017; Lau, 2019 他)。

次いで、サステナビリティパフォーマンス評価方法に関する研究10本 (Padua and Jabbour, 2015; Lam and Dai, 2015; Sharma et al., 2015; Gualandris et al., 2015; Pryshlakivsky and Searcy, 2017 他)、サステナビリティパフォーマンスが、財務パフォーマンスにプラスの影響を与えるとする先行研究が9本 (Testa and D'Amato, 2017; Weber, 2017; Croom et al., 2018; Thai and Jie, 2018; Ganda, 2018 他)、サプライチェーン・マネジメントに関する研究8本 (Meckenstock et al., 2016; Neumuller et al., 2016; Shafiq et al., 2017; Davis-Sramek et al., 2018; Silva et al., 2019 他)、投資4本 (Dobbs and van Staden, 2016; Liu et al., 2018; Hsiao and Kelly, 2018; Alcaraz, 2020)、教育3本 (Seto-Pamies and Papaioikonomou, 2016; Borges et al., 2017; Fonseca et al., 2018)、組織論の分野における研究3本 (Lo and Fu, 2016; Belwalkar et al., 2018; Pathak et al., 2020)、その他分類の研究と続く。

また、サステナビリティとCSRの位置付けや、サステナビリティの定義について言及している論

文も見られる。Seto-Pamies and Papaioikonomou (2016) は、サステナビリティはCSRと密接に結びついているが、サステナビリティはCSRより時間的範囲が広く、さらに、CSRが経済価値の創出を補完的な位置付けとしているのに対し、サステナビリティは企業と社会の関係をより強固なものとし、社会価値の創造を通じて経済的繁栄が起こると指摘している。同様に、Fonseca et al. (2018) も、サステナビリティの概念は、ステークホルダー・エンゲージメント、企業倫理等、CSRと同じ概念を備えながら、さらに社会価値の創造を通じて経済価値創出を行うものと位置付けている。Lin et al. (2017) も、CSRをサステナビリティの一つのキーコンポーネントと位置付けている。

このように、サステナビリティ経営では、サプライチェーン・マネジメントを始め、広い範囲で研究が展開されており、また、CSR経営より長期的な視点に立ち、CSRの概念を包括しながら、さらに、社会価値の創造を通じて経済価値創出を行うものと位置付けられていることが示唆される。

5. 3. ESG AND Management 論文の内容分析

ESG AND Managementで条件に該当する17本の論文について、その特徴を下記に表す。

企業の財務パフォーマンスと、ESGパフォーマンスが高い関連性を持っていると指摘する研究が5本見られる (Isaksson and Woodside, 2016; Kolbel et al., 2017; Blank, 2019; Velte, 2019; Guo et al., 2020)。一方、企業の財務パフォーマンスや戦略と、ESGパフォーマンスが関連性を持っていないと指摘する研究も存在する (Rees and Rodionova, 2015; Nitescu and Cristea, 2020)。また、経営陣の在職期間が長くなるにつれて、ESG開示の質が低下する等、非財務情報の開示に関する研究が4本見られる (Tamimi and Sebastianelli, 2017; McBrayer, 2018; Esch et al., 2019; Hsueh, 2019)。

Hsueh (2019) は、投資家を意識したESGに関

する積極的な情報開示は、企業価値を考える上で重要である点について言及している。Blank (2019) も、投資家や経営陣等は、ESG が企業価値に与える影響を深く理解する必要があるとし、ESG と企業価値の関係性について言及している。

このように、企業の財務パフォーマンスと ESG パフォーマンスの関連性については議論の渦中にあり、統一した見解には至っていない。しかし、ESG 投資を始めとするサステナブル投資を意識した非財務情報開示のあり方が重要性を増し、ESG 経営に関する研究の中で論じられる傾向が見え始めている。

5. 4. CSR AND Management 論文の内容分析

CSR AND Management で条件に該当する15本の論文においては、CSR パフォーマンスが企業価値を高めたり、企業ブランドを持続可能なものにするに指摘する先行研究が3本見られる (Sial et al., 2018; Long and Lin, 2018; Varyash et al., 2020)。また、倫理的リーダーシップと組織の腐敗防止の関係性等、企業倫理に関する論文が3本 (Buchanan, 2018; Al-Reyaysa et al., 2019; Tafolli and Grabner-Krauter, 2020)、さらに、企業がCSRをマネジメントする上で必要なシステムや体制について言及する論文が2本 (Asiaei and Bontis, 2016; Garcia-Sanchez et al., 2019 他)、そして、その他分類の研究が続く。

このように、CSR パフォーマンスが企業価値等とポジティブに影響し合っていることや、CSR 経営を行う上で、倫理的リーダーシップや、マネジメントシステムが重要な位置付けであることに関する言及が見られる。

5. 5. CSV AND Management 論文の内容分析

CSV AND Management で条件に該当する論文は2本である。Hovring (2017) は、CSV における緊張と対立の構図を指摘している。一方、Chen et al. (2020) は、オンラインリサー

チを行った結果、一般市民は従来のCSRよりも、社会価値と経済価値両者の創出を目指すCSVの方に期待を寄せているとする結果を導いている。

このように、社会価値と経済価値両者の創出を目指すCSVは複雑であり、緊張と対立を孕むこと、しかし、利益を生み出すアクションが限定的になりがちなCSRよりは、社会価値と経済価値両者の創出を目指すCSVの方が、ステークホルダーの求心力になると期待されている点が特徴として見られる。

6. 考察

SDGs AND Management (SDGs 経営)、Sustainability AND Management (サステナビリティ経営)、ESG AND Management (ESG 経営)、CSR AND Management (CSR 経営)、CSV AND Management (CSV 経営) のキーワードを含む先行研究で論じられている、主なテーマについて内容分析を行った結果を、表1の分析フレームワークに基づき分類し、表4の通り表す。

サステナビリティ経営は、該当数10項目と一番多く、次にSDGs経営の9項目と続く。各経営を表す用語を含む研究に共通する点として、企業価値、企業評価を重要なテーマとして位置付けている点が挙げられる。

また、SDGs経営に関する研究からは、教育を重要なものと位置付け、グローバル・ガバナンスの下、企業のサステナビリティ活動を推進している経営のあり方が特徴として挙げられる。

サステナビリティ経営に関する研究は、サプライチェーン・マネジメントに関する言及が比較的多く見られること、さらに、CSR経営より長期的な視点で、幅広い範囲に渡り、より多くのステークホルダーを考慮しながら社会的課題に対応し、企業価値向上に取り組む経営のあり方と言える。

CSR経営に関する研究では、社会的責任や

表4 社会価値創出に取り組む企業経営の分類⁹⁾

① 戦略・マネジメント	SDGs ※	サス※	ESG ※	CSR ※	CSV ※
マネジメントシステム		✓		✓	
競争優位の獲得（エコプロダクトの開発・展開等）	✓				✓
サプライチェーン・マネジメント		✓			
② サステナビリティの取り組み					
従業員教育	✓	✓			
企業倫理、ガバナンス、コンプライアンス	✓	✓	✓	✓	
③ サステナビリティパフォーマンス					
環境指標（二酸化炭素排出量等）	✓	✓	✓	✓	
社会指標（女性従業員の割合等）	✓	✓	✓	✓	
④ ステークホルダー関係					
ステークホルダー・エンゲージメント	✓	✓			✓
情報開示／レポート	✓	✓	✓		
⑤ 財務パフォーマンス					
企業価値、企業評価	✓	✓	✓	✓	✓
サステナブル投資	✓	✓	✓		
⑥ 公共政策					
公共政策への対応					

※ SDGs=SDGs 経営, サス = サステナビリティ経営, ESG=ESG 経営, CSR=CSR 経営, CSV=CSV 経営.

出典：筆者作成

倫理性を重要な要素として、組織における倫理的リーダーシップや、マネジメントシステムの重要性を問う研究が複数見出された。

ESG 経営に関する研究では、ESG に関する情報開示や、ESG 投資に関する言及、また、CSV 経営は、社会価値と経済価値両者の創出を目指すことで、ステークホルダーの求心力になることが期待されている点について言及が見られる。

今回、企業を主な研究対象とする先行研究の分類を行ったという影響もあるが、企業の社会価値創出の文脈において、企業と公共政策の関係性に関して論じている文献は、今回の分析条件下では該当がなかった。「資本主義を元の軌道に戻せるかどうかは公共政策次第だ」(Pucker, 2021, p. 143; 日本語訳, 2021, p. 109) という指摘が見られることから、公共政策と

社会価値創出に取り組む企業経営の関係性に関する研究の拡充が、今後期待される。

7. 結 び

本稿では、社会価値創出に取り組む企業経営の分析フレームワークで示した、6 領域に基づき先行研究を分析し、SDGs 経営、サステナビリティ経営、ESG 経営、CSR 経営、CSV 経営の5つの用語について考察を行った。統一した見解の示されていない中、分析フレームワークを表して、社会価値創出に取り組む企業経営に関する先行研究を分析し、各経営を表す用語について考察したことは、サステナビリティと企業経営の研究分野において、新たな学術的示唆を提供したものと考えられる。また、実務面において、企業がステークホルダーと共通理解を図って活動を進めていくためにも、社会価値創出に取り

組む企業経営を表す用語について、それぞれが持つ意味を示したことは重要である。

企業価値や企業評価を重要なテーマと位置付けている点が、5つの経営を表す用語を含む研究において、共通して言及されている点であることが導出された。さらに、SDGs経営は、国際目標の達成に向けて、教育を持って企業にサステナビリティ活動を浸透させる経営、サステナビリティ経営は、CSR経営より長期的な視点で、幅広い範囲に渡り、かつ多くのステークホルダーを視野に入れて企業価値向上に取り組む経営、ESG経営は、ESG投資を始めとするサステナブル投資を考慮した経営、CSR経営は、倫理性が問われる経営、CSV経営は、社会価値と経済価値両者の創出を積極的に目指す経営といったように、それぞれの用語が異なる特徴を持つことも見出された。

また、今回は該当する文献が見当たらなかった、企業の社会価値創出の文脈における、公共政策と企業の関係性に関する研究の拡充が、サステナビリティと企業経営に関する研究の進化を考える上でも、必要とされる点も導き出された。

研究課題としては、今回はキーワードで抽出された論文のタイトルや抄録を概観し、頻出度の高い用語を含む論文の内容に関する分析に留まったことが挙げられる。今後は用語の頻出度のレベルを一段下げたその他の論文についても、内容分析を行うこととする。同様に、今回対象となっていない日本語論文についても、分析対象とする必要がある。また、今回は学術論文を対象として各用語を整理し、その特徴について検討を行ったが、企業のサステナビリティレポート等、実務レベルにおいて使用されている用語も対象として、今後、分析を行う必要性が挙げられる。さらに、時間の経過とともに、各用語が、学術論文や企業のサステナビリティレポート等で論じられる際、その意味合いに変化が発生するか、追跡調査が必要であることも、今後の研究課題とする。

注

- 1) キーワードは、SDGs経営、サステナビリティ経営、ESG経営、CSR経営、CSV経営で検索。その総数として、2015年は年間9記事、2020年は年間78記事だった。
- 2) 各経営を表す用語として、SDGs経営、サステナビリティ経営、ESG経営、CSR経営、CSV経営を用いる。
- 3) 254の専門分野にわたる1億6,100万件のレコードを収めた引用データベース。
- 4) 2022/1/11にWeb of Scienceを用いて、筆者が検索。尚、SDGs AND Managementは、2022/7/12、CSV AND Managementは、2022/12/14に筆者が検索。検索期間は、2015年9月から2020年12月で設定。
- 5) 経営に該当する用語としては、Management (三省堂, 1992; Linguee, URL)を用いる。尚、SDGs management, CSV managementは該当無、ESG managementは4件、CSR managementは15件と該当する文献が僅かなため、本稿では、各用語 AND Managementでキーワード検索を行い、文献を抽出する。また、2つ以上の用語に重複して論文が検出された場合には、抄録に含まれる用語数が多い方に分類し、重複を回避する。そして、科学的根拠に基づく計画に沿った原著論文を対象とするためにも、Web of Scienceにおいて、Articleに登録された論文に絞り込みを行う。さらに、企業経営に関する論文を対象とするために、Web of Scienceの詳細絞り込みオプションにて、Business, Management, Business Financeに絞り込んだ論文を対象とする。
- 6) クラスタ分析では、抽出した論文のタイトル及び抄録において、出現頻度が10回以上の用語を対象とする (CSV AND Managementに関しては、10回以上に該当するものが2つしか無いため、出現頻度6回以上の用語を対象とする)。また、本稿では、クラスタ分析の結果、出現頻度上位10位以内の用語が、要約に4つ以上含まれている論文を、内容分析の対象とする。
- 7) 環境学、看護学、システム科学、心理学等が含まれる。
- 8) 各カテゴリー内において、類似した主張が2本以上見当たらない論文を、その他分類の研究とする。
- 9) 第5節において、内容分析の対象となった論文が該当する。

謝 辞

本研究はJSPS 科研費 22K13450 の助成を受けたものです。

参考文献

【英 語】

- Alcaraz, AS., (2020), "Competitive environment and bank development", *Journal of Global Responsibility*, vol. 11, issue 3, pp. 257–274.
- Al-Reyaysa, M., Pinnington, AH., Karatas-Ozkan, M., Nicolopoulou, K., (2019), "The management of corporate social responsibility through projects: A more economically developed country perspective", *Business Strategy and Development*, vol. 2, issue 4, pp. 358–371.
- Anderson, BB., Ratiu, C., (2019), "Stakeholder considerations in public-private partnerships", *World Journal of Entrepreneurship Management and Sustainable Development*, vol. 15, issue 3, pp. 212–221.
- Asiaei, K., Bontis, N., (2016), "Using a balanced scorecard to manage corporate social responsibility", *Knowledge and Process Management*, vol. 26, issue 4, pp. 371–379.
- Belwalkar, S., Vohra, V., Pandey, A., (2018), "The relationship between workplace spirituality, job satisfaction and organizational citizenship behaviors — An empirical study", *Social Responsibility Journal*, vol. 14, issue 2, pp. 410–430.
- Ben-Amar, W., Chang, M., McIlkenny, P., (2017) , "Board Gender Diversity and Corporate Response to Sustainability Initiatives: Evidence from the Carbon Disclosure Project", *Journal of Business Ethics*, vol. 142, issue 2, pp. 369–383.
- Blank, HD., (2019), "Corporate Treatment of Veterans as an ESG Factor and a Potential Source of Incremental Returns", *Review of Business*, vol. 39, issue 1, pp. 75–93.
- Borges, JC., Ferreira, TC., de Oliveira, MSB., Macini, N., Caldana, ACF., (2017), "Hidden curriculum in student organizations: Learning, practice, socialization and responsible management in a business school", *International Journal of Management Education*, vol. 15, issue 2, pp. 153–161.
- Buchanan, J., (2018), "Money laundering through gambling devices", *Society and Business Review*, vol. 13, issue 2, pp. 212–237.
- Callahan, J.L., (2010), "Constructing a manuscript: Distinguishing integrative literature reviews and conceptual and theory articles", *Human Resource Development Review*, vol.9, issue.3, pp. 300–304.
- Calazans, D., de Souza, WJ., Pequeno, NPF., de Araujo, FR., de Lima, V., (2019), "Integrating university extension into teaching and research in administration: systematization of experience with indigenous people in the light of the sustainable development goals", *ADMINISTRACAO-ENSINO E PESQUISA*, vol. 20, issue 3, pp. 523–567.
- Castillo-Villar, RG., (2020), "Identifying determinants of CSR implementation on SDG 17 partnerships for the goals", *Cogent Business & Management*, vol. 7, issue 1, pp. 1–24.
- Chen, YRR., Hung-Baesেকে, CJF., Bowen, SA., Zerfass, A., Stacks, DW., Boyd, B., (2020), "The role of leadership in shared value creation from the public's perspective: A multi-continental study", *Public Relations Review*, vol. 46, issue 1, pp. 1–11.
- Christ, KL., Burritt, RL., (2019), "Implementation of sustainable development goals: The role for business academics", *Australian Journal of Management*, vol. 44, issue 4, pp. 571–593.
- Croom, S., Vidal, N., Spetic, W., Marshall, D., McCarthy, L., (2018), "Impact of social sustainability orientation and supply chain practices on operational performance", *International Journal of Operations & Production Management*, vol. 38, issue 12, pp. 2344–2366.
- Cunha, FAFD., de Oliveira, EM., Orsato, RJ., Klotzle, MC., Oliveira, FLC., Caiado, RGG., (2020), "Can sustainable investments outperform traditional benchmarks? Evidence from global stock markets", *Business Strategy and the Environment*, vol. 29, issue 2, pp. 682–697.
- Davey, J., Asemgeest, R., O'Reilly-Schwass, S., Davey, H., FitzPatrick, M., (2017), "Visualizing intellectual capital using service-dominant logic What are hotel companies reporting?", *International Journal of Contemporary Hospitality Management*, vol. 29, issue 6, pp. 1745–1768.
- Davis-Sramek, B., Thomas, RW., Fugate, BS., (2018), "Integrating Behavioral Decision Theory and Sustainable Supply Chain Management: Prioritizing Economic, Environmental, and Social Dimensions

- in Carrier Selection”, *Journal of Business Logistics*, vol. 39, issue 2, pp. 87–100.
- DesJardins, J., (2016), “Is it Time to Jump off the Sustainability Bandwagon?”, *Business Ethics Quarterly*, vol. 26, issue 1, pp. 117–135.
- Dobbs, S., van Staden, C., (2016), “Motivations for corporate social and environmental reporting: New Zealand evidence”, *Sustainability Accounting Management and Policy Journal*, vol. 7, issue 3, pp. 449–472.
- Epstein, M. J., Roy, M. J., (2001), “Sustainability in action: Identifying and measuring the key performance drivers”, *Long range planning*, vol. 34, pp. 585–604.
- Esch, M., Schulze, M., Wald, A., (2019), “The dynamics of financial information and non-financial environmental, social and governance information in the strategic decision-making process”, *Journal of Strategy and Management*, vol. 12, issue 3, pp. 314–329.
- Ferro, C., Padin, C., Høgevoid, N., Svensson, G., Varela, JCS., (2019), “Validating and expanding a framework of a triple bottom line dominant logic for business sustainability through time and across contexts”, *Journal of Business & Industrial Marketing*, vol. 34, issue 1, pp. 95–116.
- Fonseca, LM., Portela, AR., Duarte, B., Queiros, J., Paiva, L., (2018), “Mapping higher education for sustainable development in Portugal”, *Management & Marketing-Challenges for the Knowledge Society*, vol. 13, issue 3, pp. 1064–1075.
- Ganda, F., (2018), “The effect of carbon performance on corporate financial performance in a growing economy”, *Social Responsibility Journal*, vol. 14, issue 4, pp. 895–916.
- Garcia-Sanchez, IM., Gomez-Miranda, ME., David, F., Rodriguez-Ariza, L., (2019), “The explanatory effect of CSR committee and assurance services on the adoption of the IFC performance standards, as a means of enhancing corporate transparency”, *Sustainability Accounting Management and Policy Journal*, vol. 10, issue 5, pp. 773–797.
- Garegnani, GM., Merlotti, EP., Russo, A., (2015), “Scoring Firms’ Codes of Ethics: An Explorative Study of Quality Drivers”, *Journal of Business Ethics*, vol. 126, issue 6, pp. 541–557.
- Gualandris, J., Klassen, RD., Vachon, S., Kalchschmidt, M., (2015), “Sustainable evaluation and verification in supply chains: Aligning and leveraging accountability to stakeholders”, *Journal of Operations Management*, vol. 38, pp. 1–13.
- Guo, YJ., Fan, D., Zhang, X., (2020), “Social media-based customer service and firm reputation”, *International Journal of Operations & Production Management*, vol. 40, issue 5, pp. 575–601.
- Herrmann, B., Rundshagen, V., (2020), “Paradigm shift to implement SDG 2 (end hunger): A humanistic management lens on the education of future leaders”, *International Journal of Management Education*, vol. 18, issue 1, pp. 1–13.
- Hovring, CM., (2017), “Corporate social responsibility as shared value creation: toward a communicative approach”, *Corporate Communication*, vol. 22, issue 2, pp. 239–256.
- Hsiao, PCK., Kelly, M., (2018), “Investment considerations and impressions of integrated reporting: Evidence from Taiwan”, *Sustainability Accounting Management and Policy Journal*, vol. 9, issue 1, pp. 2–28.
- Hsueh, L., (2019), “Opening up the firm: What explains participation and effort in voluntary carbon disclosure by global businesses? An analysis of internal firm factors and dynamics”, *Business Strategy and the Environment*, vol. 28, issue 7, pp. 1302–1322.
- Isaksson, LE., Woodside, AG., (2016), “Modeling firm heterogeneity in corporate social performance and financial performance”, *Journal of Business Research*, vol. 69, issue 9, pp. 3285–3314.
- Johnstone-Louis, M., Love, C., (2021), “The Myth of the CEO Hero”, *Harvard Business Review Digital Article*, May, 13, 2021, Harvard Business School Publishing Corporation.
- Kolbel, JF., Busch, T., Jancso, LM., (2017), “How Media Coverage of Corporate Social Irresponsibility Increases Financial Risk”, *Strategic Management Journal*, vol. 38, issue 11, pp. 2266–2284.
- KPMG, (2018), “How to Report on the SDGs: What Good Looks Like and Why It Matters”, KPMG’s Global Center of Excellence for Climate Change and Sustainability.
- Labuschagne, C., Brent, AC., Van Erck, R. P. G., (2005), “Assessing the sustainability performances of industries”, *Journal of cleaner production*, vol. 13, issue 4, pp. 373–

- 385.
- Lam, JSL., Dai, J., (2015), "Environmental sustainability of logistics service provider: An ANP-QFD approach", *International Journal of Logistics Management*, vol. 26, issue 2, pp. 313-333.
- Lau, CK., (2019), "The economic consequences of business sustainability initiatives", *Asia Pacific Journal of Management*, vol. 36, issue 4, pp. 937-970.
- Lin, H., Zeng, SX., Ma, HY., Zeng, RC., Tam, VWY., (2017), "An indicator system for evaluating megaproject social responsibility", *International Journal of Project Management*, vol. 35, issue 7, pp. 1415-1426.
- Liu, C., Chung, CY., Sul, HK., Wang, KN., (2018), "Does hometown advantage matter? The case of institutional blockholder monitoring on earnings management in Korea", *Journal of International Business Studies*, vol. 49, issue 2, pp. 196-221.
- Lo, FY., Fu, PH., (2016), "The interaction of chief executive officer and top management team on organization performance", *Journal of Business Research*, vol. 69, issue 6, pp. 2182-2186.
- Long, CZ., Lin, J., (2018), "The impact of corporate environmental responsibility strategy on brand sustainability: An empirical study based on Chinese listed companies", *Nankai Business Review International*, vol. 9, issue 3, pp. 366-394.
- Lozano, R., (2013), "Sustainability inter-linkages in reporting vindicated: a study of European companies", *Journal of Cleaner Production*, vol. 51, pp. 57-65.
- Mansell, P., Philbin, SP., Konstantinou, E., (2020), "Redefining the Use of Sustainable Development Goals at the Organisation and Project Levels-A Survey of Engineers", *Administrative Sciences*, vol. 10, issue 3, pp. 1-39.
- McBrayer, GA., (2018), "Does persistence explain ESG disclosure decisions?", *Corporate Social Responsibility and Environmental Management*, vol. 25, issue 6, pp. 1074-1086.
- Meckenstock, J., Barbosa-Povoa, AP., Carvalho, A., (2016), "The Wicked Character of Sustainable Supply Chain Management: Evidence from Sustainability Reports", *Business Strategy and the Environment*, vol. 25, issue 7, pp. 449-477.
- Miralles-Quiros, JL., Miralles-Quiros, MM., Nogueira, JM., (2019), "Diversification benefits of using exchange-traded funds in compliance to the sustainable development goals", *Business Strategy and the Environment*, vol. 28, issue 1, pp. 244-255.
- Molthan-Hill, P; Robinson, ZP; Hope, A; Dharmasmita, A; McManus, E., (2020), "Reducing carbon emissions in business through Responsible Management Education: Influence at the micro-, meso- and macro-levels", *International Journal of Management Education*, vol. 18, issue 1, pp. 1-15.
- Muff, K., Liechti, A., Dyllick, T., (2020), "How to apply responsible leadership theory in practice: A competency tool to collaborate on the sustainable development goals", *Corporate Social Responsibility and Environmental Management*, vol. 27, issue 5, pp. 2254-2275.
- Neumuller, C., Lasch, R., Kellner, F., (2016), "Integrating sustainability into strategic supplier portfolio selection", *Management Decision*, vol. 54, issue 1, pp. 194-221.
- Nitescu, DC., Cristea, MA., (2020), "Environmental, Social and Governance Risks—New Challenges for the Banking Business Sustainability", *Anfiteatra Economic*, vol. 22, issue 55, pp. 692-706.
- Padua, SID., Jabbour, CJC., (2015), "Promotion and evolution of sustainability performance measurement systems from a perspective of business process management from a literature review to a pentagonal proposal", *Business Process Management Journal*, vol. 21, issue 2, pp. 403-418.
- Pathak, DK., Verma, A., Kumar, V., (2020), "Performance variables of GSCM for sustainability in Indian automobile organizations using TOPSIS method", *Business Strategy and Development*, vol. 3, issue 4, pp. 590-602.
- Paz, EC., Cuenca, MDS., (2020), "Global Governance and the Sustainable Development Goals in Spain", *3C EMPRESA*, pp. 149-168.
- Perrini, F., Tencati, A., (2006), "Sustainability and Stakeholder Management: The Need for New Corporate Performance Evaluation and Reporting Systems", *Business Strategy and the Environment*, vol. 15, pp. 296-308.
- Pizzi, S., Caputo, F., Venturelli, A., (2020), "Accounting to ensure healthy lives: Critical

- perspective from the Italian National Healthcare System”, *Corporate Governance—the International Journal of Business in Society*, vol. 20, issue 3, pp. 445–460.
- Post, J. E., Lawrence, A. T., Weber, J., (2002), “*Business and Society: Corporate Strategy, Public Policy, Ethics*”, The McGraw/Hill Companies, Inc., 日本語監訳: 松野弘, 小阪隆秀, 谷本寛治 (2012)『企業と社会—企業戦略・公共政策・倫理—』ミネルヴァ書房.
- Porter, M., Kramer, M., (2011), “Creating Shared Value: Redefining Capitalism and the Role of the Corporation in Society”, *Harvard Business Review*, Jan and Feb 2011, vol. 89, pp. 62–77.
- Pryshlakivsky, J., Searcy, C., (2017), “A Heuristic Model for Establishing Trade-Offs in Corporate Sustainability Performance Measurement Systems”, *Journal of Business Ethics*, vol. 144, issue 2, pp. 323–342.
- Pucker, K. P., (2021), “Overselling Sustainability Reporting”, *Harvard Business Review*, May-June, 2021, vol. 99, issue 3, pp. 134–143 (ケネス P. バッカー (2021) 編集部訳「名ばかりのサステナビリティ経営から脱却せよ」『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー 2021年12月号』pp.98–109, ダイヤモンド社).
- Rajnoha, R., Lesnikova, P., Krajcik, V., (2017), “Influence of Business Performance Measurement Systems and Corporate Sustainability Concept to Overall Business Performance: Save the Planet and Keep Your Performance”, *E & M Ekonomie a Management*, vol. 20, issue 1, pp. 111–128.
- Ranabahu, N., (2020), “Wicked’ solutions for ‘wicked’ problems: Responsible innovations in social enterprises for sustainable development”, *Journal of Management & Organization*, vol. 26, issue 6, pp. 995–1013.
- Rees, W., Rodionova, T., (2015), “The Influence of Family Ownership on Corporate Social Responsibility: An International Analysis of Publicly Listed Companies”, *Corporate Governance—an International Review*, vol. 23, issue 3, pp. 184–202.
- Rosati, F., Faria, LGD., (2019), “Business contribution to the Sustainable Development Agenda: Organizational factors related to early adoption of SDG reporting”, *Corporate Social Responsibility and Environmental Management*, vol. 26, issue 3, pp. 588–597.
- Rosenbloom, A., Gudic, M., Parkes, C., Kronbach, B., (2017), “A PRME response to the challenge of fighting poverty: How far have we come? Where do we need to go now?”, *International Journal of Management Education*, vol. 15, issue 2, pp. 104–120.
- Sankaran, S., Muller, R., Drouin, N., (2020), “Creating a ‘sustainability sublime’ to enable megaprojects to meet the United Nations sustainable development goals”, *Systems Research and Behavioral Science*, vol. 37, issue 5, pp. 813–826.
- Schramade, W., (2017), “Investing in the UN Sustainable Development Goals: Opportunities for Companies and Investors”, *Journal of Applied Corporate Finance*, vol. 29, issue 2, pp. 87–100.
- Seto-Pamies, D., Papaiokonomou, E., (2016), “A Multi-level Perspective for the Integration of Ethics, Corporate Social Responsibility and Sustainability (ECSRS) in Management Education”, *Journal of Business Ethics*, vol. 7, issue 12, pp. 885–894.
- Shafiq, A., Johnson, PF., Klassen, RD., Alwaysheh, A., (2017), “Exploring the implications of supply risk on sustainability performance”, *International Journal of Operations & Production Management*, vol. 37, issue 10, pp. 1386–1407.
- Sharma, VK., Chandana, P., Bhardwaj, A., (2015), “Critical factors analysis and its ranking for implementation of GSCM in Indian dairy industry”, *Journal of Manufacturing Technology Management*, vol. 26, issue 6, pp. 911–922.
- Sial, MS., Zheng, CM., Khan, T., Nguyen, VK., (2018), “Corporate social responsibility, firm performance and the moderating effect of earnings management in Chinese firms”, *Asia-Pacific Journal of Business Administration*, vol. 10, issue 2–3, pp. 184–199.
- Silva, GM., Gomes, PJ., Sarkis, J., (2019), “The role of innovation in the implementation of green supply chain management practices”, *Business Strategy and the Environment*, vol. 28, issue 5, pp. 819–832.
- Tamimi, N., Sebastianelli, R., (2017), “Transparency among S&P 500 companies: An analysis of ESG disclosure scores”, *Management Decision*, vol. 55, issue 8, pp. 1660–1680.
- Tafolli, F., Grabner-Krauter, S., (2020), “Employee perceptions of corporate social responsibility and organizational corruption: Empirical evidence from Kosovo”, *Corporate Governance—the International Journal of Business in Society*, vol. 20, issue 7, pp. 1349–1370.
- Testa, M., D’Amato, A., (2017), “Corporate

- environmental responsibility and financial performance: Does bidirectional causality work? Empirical evidence from the manufacturing industry”, *Social Responsibility Journal*, vol. 13, issue 2, pp. 221–234.
- Tewari, S., Singh, H., Wadhwa, S., Tandon, D., (2020), “Scaling Impact Investment for Sustainable Development Goals: An Empirical Analysis”, *Australasian Accounting Business and Finance Journal*, vol. 15, issue 5, pp. 4–21.
- Thai, V., Jie, F., (2018), “The impact of total quality management and supply chain integration on firm performance of container shipping companies in Singapore”, *Asia Pacific Journal of Marketing and Logistics*, vol. 30, issue 3, pp. 605–626.
- van Zanten, J.A., van Tulder., (2018), “Multinational enterprises and the Sustainable Development Goals: An institutional approach to corporate engagement”, *Journal of International Business Policy*, vol. 1, issue 3–4, pp. 208–233.
- Varyash, I., Mikhaylov, A., Moiseev, N., Aleshin, K., (2020), “Triple Bottom Line and Corporate Social Responsibility Performance Indicators for Russian Companies”, *Entrepreneurship and Sustainability issues*, vol. 8, issue 1, pp. 313–329.
- Velte, P., (2019), “Does CEO power moderate the link between ESG performance and financial performance? A focus on the German two-tier system”, *Management Research Review*, vol. 43, issue 5, pp. 497–520.
- von Geibler, J., Piwowar, J., Greven, A., (2019), “The SDG-Check: Guiding Open Innovation towards Sustainable Development Goals”, *Technology Innovation Management Review*, vol. 9, issue 3, pp. 20–37.
- Weber, O., (2017), “Corporate sustainability and financial performance of Chinese banks”, *Sustainability Accounting Management and Policy Journal*, vol. 8, issue 3, pp. 358–385.
- Zemanova, S., Drulakova, R., (2020), “Mainstreaming Global Sustainable Development Goals through the UN Global Compact: The Case of Visegrad Countries”, *Journal of Risk and Financial Management*, vol. 13, issue 3, pp. 1–10.
- Zhiguel-Luna, AR., Sanmartin-Ramon, GS., (2019), “Educational management and inclusion: A look at diversity”, *Vision gerencial*, vol. 18, issue 2, pp. 324–332.
- 【日本語】
石田満恵 (2022a) 「サステナブル投資とインパクト投資に関する一考察—その変遷と方向性—」『横浜経営研究』第43巻第1号, pp. 151–168.
株式会社三省堂 (1992) 『デイリーコンサイス和英辞典』三省堂, グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ), 地球環境戦略研究機関 (IGES) (2018) 『未来につなげるSDGsとビジネス～日本における企業の取組み現場から～』GCNJ, IGES.
高浦康有・藤野真也編著 (2022) 『企業倫理入門』白桃書房.
松田千恵子 (2021) 『サステナブル経営とコーポレートガバナンスの進化』日経BP.
松野弘 (2019) 『「企業と社会」論とは何か: CSR論の進化と現代的展開』ミネルヴァ書房.
宮本定明 (1999) 『クラスター分析入門 ファジィクラスターリングの理論と応用』森北出版.
モニターデロイト (2018) 「SDGsが問いかける経営の未来」日本経済新聞出版社.
- 【参考 URL】
DeepL SE, “Linguee”, <<https://www.linguee.jp/>> (アクセス日: 2022年8月7日).
van Eck, N.J., Waltman, L., “VOSviewer”, <<https://www.vosviewer.com/contact>> (アクセス日: 2021年8月5日).
van Eck, N. J., Waltman, L., (2021), “VOSviewer manual”, 22 July 2021, Lieden University <https://www.vosviewer.com/documentation/Manual_VOSviewer_1.6.17.pdf> (アクセス日: 2021年8月5日).
年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) 「GPIFのESG投資について」 <<https://www.gpif.go.jp/lp/moreadvanced/>> (アクセス日: 2023年2月8日).
- [いしだ みつえ 横浜国立大学大学院国際社会科学研究院講師]

